

(別紙様式2) 利用学習報告書

平成28年7月26日

仙台市富沢遺跡保存館 館長 様

仙台市立川前小学校

校 長 石山 芳毅

担 当 第6学年 伊東 佳子

「縄文の森広場」及び「地底の森ミュージアム」利用学習報告書の提出について

標記の件について下記の内容で提出いたします。お取り計らい方よろしく申し上げます。

記

1 事後指導について

(1) 実施日 平成28年 6月 13日(月) 時数2で各クラス実施

(2) 主な内容

- ・社会科の学習で、学習ノートの答え合わせと見学・体験の振り返りを行う。
- ・社会科の学習で、見学や体験を通して学んだことを新聞形式でまとめる。

2 送付する資料

児童のまとめた新聞(11点)

担当：第6学年 教諭 伊東 佳子

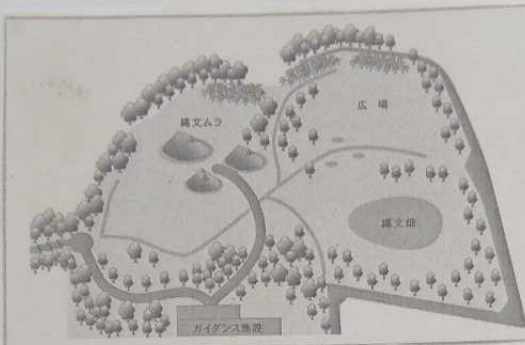
TEL 394-2225 FAX 394-6727

Email kawamae@sendai-c.ed.jp

縄文新聞

縄文の森広場
場について

縄文の森広場は、縄文人のくらしのあとが見つけられました。遺跡の名前は「山田上ノ台遺跡」です。遺跡の上に建てた。



縄文の森広場では、勾玉づくりへ体験

縄文の森広場では、勾玉づくりを体験しました。じゅんじゅんは、次のようなものづくり。

- ① まが玉の形を書きます。
- ② 勾玉の形に石でけず。
- ③ 水につけたやすりでけします。
- ④ つるつるになる紙でけずります。
- ⑤ ひもに通して完成です。

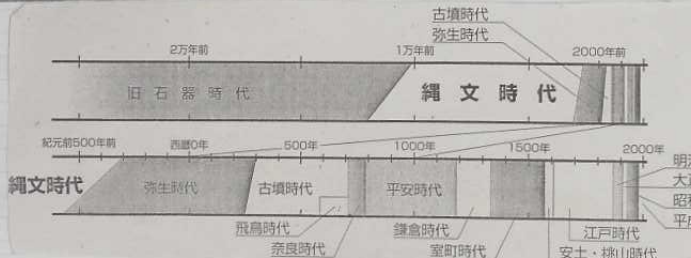


勾玉

完成品の例が、次の写真です。

発行日 20日
月 日
発行月 日
発行年 日

縄文時代の前の時代、後の時代



縄文時代の前の時代は「旧石器時代」です。旧石器時代では、ほし

た肉を石包丁で切ったり、焼いたり、石器を矢にしたり、取りかえたりしていたそうです。これは、弥生時代では、何をしていたのでしょうか？

弥生時代は、水稲耕作による、稲作の技術をもつ集落が、利根川から九州に移住することから始まりました。



このように、稲を石包丁で収穫していったそうです。

復元住居について

3軒の竪穴住居を復元しています。クリ材で骨組みを組んだ屋根に土まのせた土壁タイプの住居になっています。館内にも竪穴住居の一部を復元しており、縄文時代の住居内での生活の様子が再現されています。



縄文の森広場に行くと、色々なことを学びました。勾玉作り、復元住居、縄文人のこと、こんなにも昔のことを勉強したのは、始めてでした。いい勉強になりました。ありがとうございます。

縄文新聞

制作者

発行日

六月二十一日

地底にうまつた遺跡

地底の森シェーシアムを見学したなかで一番心に残ったのが木の幹や根、ミ、株など、その他にも植物に關係するもの、シカのフコ、ミん虫の羽なども見つけ、た遺跡です。

説明してくださった方のお話によると、調査の結果、水がたまっていたところには水の中にあるプランクトンなどが見つか、たり、まだ、たところには土の中にあるプランクトンなどが見つか、たそうです。小つうなら木やフコなどはくさって土にもど、てしまわうそうです。それでも遺跡にな、て残っていたのは、水につか、ていたから、たそうです。なので、木はさわ、てみると以外とやわらかいそうです。

その他にも、人間がたき火をし、そのまわりで石器を作、たり、肉を切、たりしたあとがありました。たき火をした後の炭は、けんび鏡が見えたりキラキラと光、まいるそうです。たき火のまわりには、石器を作、たときにでた石のかげらや肉を切、るのに使、た石のナイフが落ちていたという話をしてくださいました。

はえていた木は、ま、しりはえていたわけではなく、まばらにはえていて、ところどころには水がたま、ていたそうです。

シカのフコやミん虫の羽が遺跡に残、ていたので、シカなどの動物やミん虫をすんでいたと考、えらる、という話を聞きました。

シカは、ハシバシヤササを食べていたことも分、たそうです。そのミシの木の名、くは、トウヒヤグイマツなどの針葉樹で、それにシラカンバやヒノキなどの広葉樹がまじり、その近くにはハシバシヤツツジなどの広い木があ、たそうです。また、沼や湿地、草原にはスゲヤキクの花がまなごの様、か草が草が生えていたそうです。

まが玉と石器

まが玉と石器づくりの体験もしました。今回は、まが玉はヒスイよりもこまごまやわらかい石でづくり、石器もあま、ていどは形が良、いので作りました。

それでも、まが玉も石器づくりもたいへんでした。特に、石器づくりはコツがあ、るむずかしが、たです。

なので、昔の人が作、た、ヒスイのまが玉や石器づくりは、も、とたいへんで、むずかしが、たと思います。そして、それをつくれた昔の人はすごいと思いました。



まが玉

縄文と現代

昔の宮城にすんでいたミん虫の、クロヒメケニコロウは、今は北海道より北でしか見られなくなり、ました。

このことから当時の気候が寒が、たことがわかります。

この他にも、現代の人間がおし、れを染、むように、昔の人をヘアピンやピアス、ネックレスにアレス、トなどのアクセサリーを使、ていたようです。

なかには、美しい石や貝で作、たもの、ミシのぬりものもありました。

感想

今回の校外学習で、縄文時代のことをたくさん知、ることができました。

縄文時代の環境が、昔は寒が、た、木がまばらにはえ、て、ところどころに水がたま、ていたこと、当時の人がどんな生活をし、生、まていたのか、どんな道具を使、ていたのかなど、新しく知、ることや、た、とてもたくさんありました。

体験学習のまが玉づくりと石器づくり、むずかしが、た、たいへんだった、けれど、楽しが、たし、良い経験になりました。

今回、たくさん知、ることや、たこと、か、たこと、けれど、知らないこと、た、自分でも、調べて、みようと思、います。

縄文&旧石器新聞

発行日
6/21

地底の森ミ
ユージアム

勾玉づくり

勾玉は、滑石で作りました。台形の形の滑石を削って作ります。最初、台形の滑石に油性ペンで、勾玉の形を書いて、その書いた形のところを削っていきます。次に、角ばっているところを丸くします。だいたい形ができたら、次は、ピカピカにするために、紙やすりで削ります。ピカピカになったら、ひもを通して完成です。



縄文時代の道具

上の道具は、あなをあける道具です。

上の道具は、木の突をすりこむ道具です。

上の道具は、木を切ったり、加工する道具です。

上の道具は、矢の尻につける道具です。

たて穴住居



昔人はクワや土を掘っていたんだよ

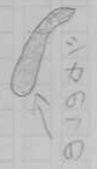
たて穴住居は、ワリの木でできていました。持ちょう。やねの上に土があら、草が生えてくる。寒の中がくさい。けむりのにおいがする。
・入り口が、南側。
・土がくらくらなっている。

石器づくり



ナイフ形石器

作らなシカのついで、石をたたいて、石のさきをとんがりさせていきます。思、たこと。かたか、た。全無なれた。むががしか、た。とんからな。われすきたり、形がおかしくな。ふとももかいたくな。



シカのついで

地底の森ミ



えいぞうで、分た。たことはやりの先をつく。ておれたやりの先をすてたこと。やりの先がおれて大変な思いました。

感心

ーこでは、生活のあと、シカのフン、たき火のあとがありました。たき火のあととこには、小さな炭のあとが。周りに石器づくりのときに、た石のかけらなどかたくさん。はって。だから、ーんとつり針を。よく見たりです。また、勾玉を。石器も。つにつくりたいです。



縄文 だより

縄文の生活

縄文時代の生活は、あな住居といふ家はくりの木でつくられています。家の入口は角柱にあり家の中心に、すすきのところは木をもちやしたあとが、あり木をもちやしたにおいが、少しづつ消え、たぐり、心な家の砂や、つくりな、はついで、つづいたこと、があります。それは、ゆかか外の地面とくらべると、少しぬくぬく、こいでやぬには、つくる、ときは、土をのせて、いる、ので、お草が、生えて、いた、こと、です、なせや、ね、の上、に、土、を、の、せて、いた、のが、分、か、ら、な、い、が、わ、た、し、は、す、ま、ま、な、く、な、い、め、な、と、思、い、ま、し、た、。



また村のまわりには、なくさんの木が、ま、え、て、い、ま、す、。その、木、は、栗、ク、ル、ミ、ト、チ、ノ、キ、コ、ナ、ラ、ケ、ヤ、キ、ヤ、マ、ザ、ク、ラ、コ、ブ、シ、ク、マ、キ、な、ど、の、木、で、す、。こ、の、木、の、な、が、で、ら、食、べ、ら、れ、る、木、の、実、が、な、る、木、は、ワ、ル、ミ、栗、ト、チ、ノ、キ、コ、ナ、ラ、で、す、。縄、文、人、が、つ、く、。ま、い、な、と、考、え、ら、れ、て、い、る、作、物、が、5、つ、あ、り、ま、す、。そ、れ、は、エ、ゴ、マ、ア、ワ、ソ、バ、ヒ、メ、キ、ビ、で、す、。

名	日
行	日 20 日 20
発	行 月 成 月
発	発 日 発

おしゃれな縄文人

縄文人は、頭には、くしやヘアピン、耳には、ピアス、首には、ネ、ク、レス、手には、ブレスレ、ト、な、ど、い、ろ、い、ろ、な、ツ、ク、セ、サ、リ、で、体、を、か、ぐ、て、い、た、よ、う、で、す、。



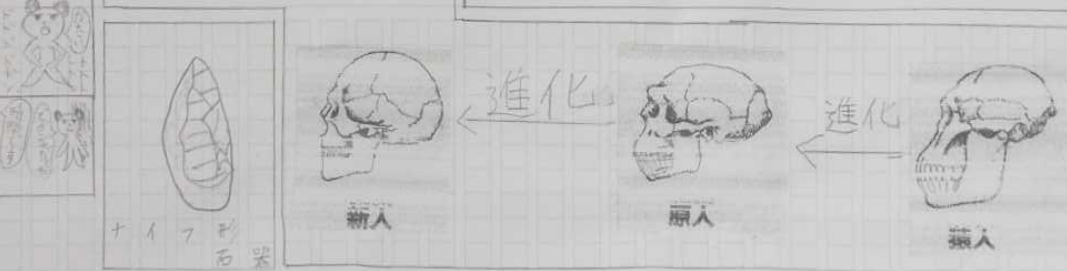
鹿の角のアクセサリー、サアリのアクセサリー、クセサリで体をかぐていたようです。

うして、たのより、も、作、る、の、が、お、も、た、し、が、た、け、れ、ど、思、い、た、よ、う、に、ま、く、ま、さ、た、の、よ、う、な、た、で、す、。昔、は、こ、え、ん、や、コ、ハ、リ、で、作、て、い、た、そ、う、で、す、が、お、も、た、し、が、石、で、作、り、ま、し、た、。



人の進化

2万年前は、旧石器時代のまは、れ、人、類、の、進、化、を、つ、と、動、人、で、す、。



2万年前の自然のようす

トミサワトウゴに、お、も、て、い、る、動、人、は、ア、カ、エ、ツ、マ、ツ、ビ、い、い、ま、る、空、を、飛、ぶ、た、け、ア、フ、カ、シ、シ、カ、ハ、シ、ハ、ミ、ヤ、サ、サ、を、食、べ、て、い、る、こ、と、が、わ、か、り、ま、し、た、。

感想

少しは勉強として、下、の、で、や、て、い、る、こ、と、を、あ、っ、り、と、初、め、マ、ド、に、た、こ、は、た、く、さ、ん、あ、ま、し、た、ま、ま、上、の、四、コ、マ、マン、ケ、と、思、じ、よ、う、に、か、た、い、物、が、あ、る、で、時、間、内、に、ま、ま、ま、せ、ん、で、し、た、。何、も、の、時、間、に、あ、り、ま、し、た、か、ん、な、よ、り、つ、ま、く、ま、ま、な、が、た、け、ど、思、い、た、よ、り、で、ま、さ、た、の、で、ラ、れ、し、か、た、で、す、。

旧石器 & 縄文

竪穴住居

家の名前は、竪穴住居。竪穴住居は、くりの木で作られている。入口は南向き。家に入ったら、何かを燃やしたようなおいかした土根の上にとものをせていました。家の周りには、落し穴、捨て場、土器を焼いたあと、穴がありました。



土根には草も生えていました。

勾玉づくり



滑石で勾玉を作ります。滑石を削って形を作ってから、ひかひかに磨き上げ、ひもを通して結んだら、オリジナルの勾玉の完成です。

道具

縄文時代に使用していた、道具は、縄文土器、弓矢、ワマの毛皮、アミ、石おの

ムラの様子

No.1
発行日
6/20

ムラでは、狩りで動物をとる。お母さんたちが、土器焼く。家づくり。川、魚釣り。お母さんたちが土器づくり。お父さんたちが土器をつくる粘土をほこいる。石おのこの家の柱にする木を切りたおしている。おばあちゃんの子もたさは若草つみをしている。お母さんたちがあなに木の皮をたくわえています。ムラには、シカ、イノシシ、イヌの動物がいます。

石器

二千年前に富沢にきた旧石器人が残していた石器、ナイフ形石器。



植物



樹木の多くはトウヒヤグイマツなどの針葉樹で、それにシラカンバやハンノキなどの広葉樹がまじり、その近くにはハシバミヤツツジなどの低い木もありました。また、沼や湿地、草原にはスゲヤクワのなかまなどのいろいろな草が生えていたようです。トミザワトウヒに最も似ている樹木は、アカエゾマツ。

昆虫

水の中で生き、今は北海道より北で見られる昆虫は、ワロヒメゲンゴロウ。



動物

富沢で見つかったツンから、シカがいろいろな動物を食べていた。ツンは、ハシンドミとササを食べていた。

生活の様子

石器を使う。たあと、石器を作ったあと、たき火あきがありました。たき火あきの場所では、こまかい炭がまきまき、て見つかりました。これは木を燃やした時にできたものを、その

感想

この学習で、縄文時代のことを、くわしく知ることができてよかったです。石器を作ったり、勾玉を作ったり、こまかい炭がまきまき、物を作る大変さが分かりました。旧石器人は頭をつか、とニまじえて、すごいなと思いました。

縄文の木

新聞

勾玉作り

縄文時代の人は、石や骨、土などで、いろいろなものを作りました。その中でも、勾玉は、石や骨、土などで作られた、美しい飾り物です。勾玉は、縄文時代の人の、生活や信仰、美意識などを、よく表しています。勾玉は、縄文時代の人の、生活や信仰、美意識などを、よく表しています。

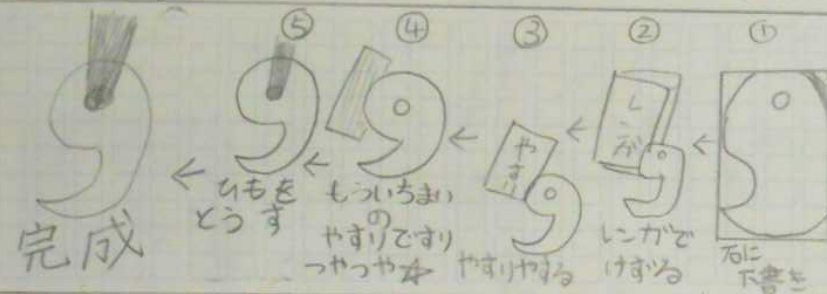


縄文時代の人の家は、穴を掘って、土を盛り上げた、土間家です。家の入り口は南向きにつくられ、まども南向きにつくられました。家のまどは、土を盛り上げた、土間家です。家の入り口は南向きにつくられ、まども南向きにつくられました。

完成日 6月日
発行所

うと奥いたのしか、た
ます

つくり方



家の特徴

縄文時代の人の家は、穴を掘って、土を盛り上げた、土間家です。家の入り口は南向きにつくられ、まども南向きにつくられました。家のまどは、土を盛り上げた、土間家です。家の入り口は南向きにつくられ、まども南向きにつくられました。



道具

縄文時代の人は、石や骨、土などで、いろいろな道具を作りました。その中でも、土器は、縄文時代の人の、生活や信仰、美意識などを、よく表しています。土器は、縄文時代の人の、生活や信仰、美意識などを、よく表しています。

感想

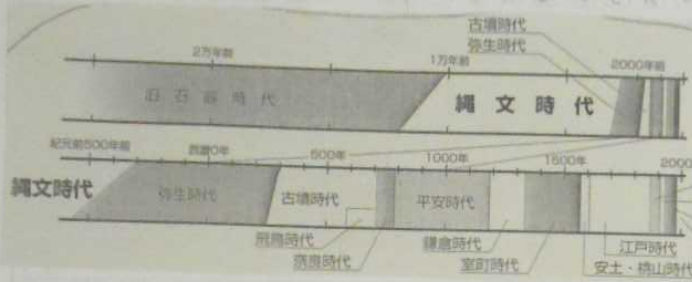
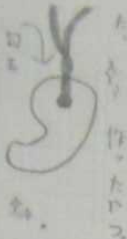
縄文時代の人は、石や骨、土などで、いろいろな道具を作りました。その中でも、土器は、縄文時代の人の、生活や信仰、美意識などを、よく表しています。土器は、縄文時代の人の、生活や信仰、美意識などを、よく表しています。



縄文新聞

縄文時代とは

縄文時代は、土器も瓦も、さらには文字もなかった。狩猟と採集で生活していた。縄文時代は、縄文時代です。



縄文時代は旧石器時代の後の時代で約一万年から一万年続いた時代です。

縄文の森広場でつくと...



縄文時代の家

家は、丸い木でできています。形は三角形で、草席の上にはえていた。



入口は南側で、家の中に入るとまどがなく、中はとても暗か。たてす。家のまわりには、土をこね、掘って、土器を焼いた穴のこ、ていきました。村のまわりの木は、ア、ケル、コナ、ゲキ、グヌなどが生えていた。

家の中の生活

家の中は、土器、土器、クマの毛皮、アミなどが家にある。どんぐりのネ、クレス、耳がざり、ひすいのベントをいしている。

家の外森の中

家の中での出来事
 ・土器焼きをする。
 ・家づくりをする。
 ・土器づくりをする。
 ・粘土をこねる。
 ・木の皮をたくれえろ。
 ・木の皮の出来事
 ・狩りて動物を取る
 ・川で魚をつる。
 ・柱にする木を切る。
 感想
 縄文時代のことをたくさん知れた。家の中に入り、こんな生活をしていんだなとどういう気持ちになりました。



あなを刺ける道具



木の皮をすりつぶす道具



木を切、とり、木を加える道具



矢につける

縄文の木木新聞

縄文時代

縄文時代は、村々、山や川、海などの自然のめぐみを食っていた時代だ。およそ一万年もの長い間、縄文時代は続きました。

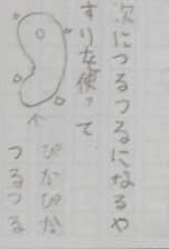
縄文人はたてあな住居に住き、道具を石や骨で作って木を切ったり、矢の先につけたりしていました。縄文人は、食べられるものはなんでも食や、道具はこわれるまで使っていて、土器も手につくし、土器を焼くして使っていました。それから、いっばい取れた木の突は地面には、たあなに入れてたぐわたり、食べきれない魚や肉は干したりくみせいでして保存する工夫をしていました。

穴玉作り

穴玉作りの道具をしました。縄文時代のえらい人なごが身に付けていました。穴玉は、たがいで、タイヤモンどがゆだそうです。最新は、台形で、コンクリートややすりでけずっていきます。



この二つでけずると、へこんだ感じになりました。



穴につるつるになるやすりを使って、ひかひかつるつるになります。本当は、ひかひか感を感じてみますか。おは、おはになりました。

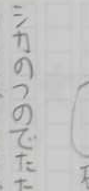
二千年前の木

木のあつは、木の根株や幹が一面にできていて、根株は横に大きく曲がりくねって、いる根とよ中人のおれた幹のあつからなり、その場に生えていたことがよく分かります。木のまわりからは、葉や穂などの植物にかかわるものや、シカのフンや昆虫の羽など、もたくさん見つかっていきます。

二千年前の地面は現在の地面のラメートル下にあります。この地面は、まわりより低く、じめじめした土地だった。このあたりは、舌くから水のかかわりが強く、縄文時代までは、湿地にぐる動物のかりをする場所として利用されて

石器作り

石器は、石をシカのフのてたいて作ります。私たちは、矢の先につけるものを作ったので、あつとがらせました。



シカのフのてたいて、うこんなふうになりました。

石を、新鋭線を切ってみたら切れたのでよな、たです。音の人は、自分たちで石を作って、使っているんだ。と知って、あつでものをとくりしました。

感心 相心

縄文の暮らしは、最新の暮らしと、た地底の森の暮らしと、生活のあつとを見つかった。たままのすがたのものを、思案しました。二千年前という数字が長く、あつと想像ができません。た、で、生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。

縄文の暮らしは、最新の暮らしと、た地底の森の暮らしと、生活のあつとを見つかった。たままのすがたのものを、思案しました。二千年前という数字が長く、あつと想像ができません。た、で、生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。

縄文の暮らし

縄文の暮らしは、最新の暮らしと、た地底の森の暮らしと、生活のあつとを見つかった。たままのすがたのものを、思案しました。二千年前という数字が長く、あつと想像ができません。た、で、生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。

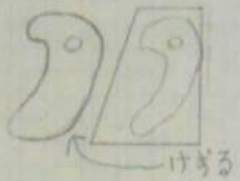
縄文の暮らしは、最新の暮らしと、た地底の森の暮らしと、生活のあつとを見つかった。たままのすがたのものを、思案しました。二千年前という数字が長く、あつと想像ができません。た、で、生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。あつと生活のあつとを見つかった。

縄文新聞

発行所 阿志野
発行日 6月20日

勾玉作り

昔、せきこ勾玉を作り
ました。せきこも
つ、ワザザリカ
りあり、せきこ
かたもりありで
まき、せきこ
じのせきこがして
シナルのせきこ
いせき。



縄文時代の
道具
土をほるための

つり針

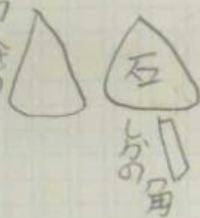


昔の家

昔の家は木と土で
ていさす。木の
柱の家を木で作
てお家は木の上
につけていま。昔
に、たうちま、
たがったる昔の
地面より中がひ
つたことかわり
た家の家はほと
んのほうで地面
いのに昔の家は
地面より中がひ
つたことかわり
ました。

石器作り

石
次にしげの角
で石をしがの角
ひたせ、ながら
かりのせんだん
がんににせてい
く。



弥生土器



道具



山の上で遺せき

山の上ノ古遺せきの
と南を走ると川が
名取川として北西に
る山は太白山とい
と力見学して分
家のまわりには
しあな、捨て
ありました。



昔の遺せき

むがしの人ガ
りせしていま
り、むがしの人
の日に次の
ガリのじり
していまし

勾玉の初ス



昔の人はまがた
まさせ、フリス
のあらたして
まさせ、あは
ゆるかたでつく
りたてりました

昔のいせき
つがる人
つじと
た、せん
のまん
つていま
した。む
まんの
つていま
つていま
つていま